



已に弥彦山の雪も次第に頂上附近へ追い上げられ、麓から春が湧き出てくる。  
エキワリソウ、カタクリなど出番を待っている。



日本一の大鳥居と言われた弥彦の鳥居は今は全国二番目とか。遠くから見れば当然ながら可愛い。  
今沿道には高校駅伝のノボリ旗が早春の風に色とりどりはためている。



山裾の残雪の土手にはフキノトウが顔を出している。  
フキミソ、テンブラ、汁物の薬味にと用途は広く春のさきがけ。

# 名のみの春



月刊第584号

「雪の越路も越の浦ぬくい」と寺泊小唄にうたわれてるように雪深い地域に比べれば海風は暖かく少し位の雪は風が吹きはじめれば忽ちとけてしまうのだが、体感温度は又別なように内陸の方からおいでの方は海風

に当たると寒い冷たいとおっしゃる。大部積った雪でも夜中に風が吹けば朝にはほとんど無くなっていると言う生活経験を通して「越の浦ぬくい」は寺泊人の皮膚に浸み込んだ感覚なので風に對してはあまり抵抗を感じない。

野積小学校は(写真参照)窓文字が見えるが、昭和三十三年卒業式を目前に三月七日火災に

野積小学校は(写真参照)窓文字が見えるが、昭和三十三年卒業式を目前に三月七日火災に

だけでも「今年の晴れ汚ったなさはどうなっているんだい」と言うことで雪の中の彼岸となつた。「春泥」の言葉もあるように雪国の春はこんな形で気をもませながらやってくるのでしよう。

野積小学校は(写真参照)窓文字が見えるが、昭和三十三年卒業式を目前に三月七日火災に

野積小学校は(写真参照)窓文字が見えるが、昭和三十三年卒業式を目前に三月七日火災に

遭いその年の卒業式は戸外で行われたと聞く。又開校当初は女子の入学希望者が一人もなかったと町史にあるがそれそれその時々の忘れ難い歴史と思いが各学校には溢れている。野積小学校は新年度から寺泊小学校と統合することになる。昔から学校問題に手を染めると選挙で苦労すると言われてきたようであるが児童数の年毎の減少と町村合併を見据える中で、町全体のバランスを考え、できるだけよい良い学級編成を町村合併前に決着つけておきたいという選択だったのであろう。

野積小学校は(写真参照)窓文字が見えるが、昭和三十三年卒業式を目前に三月七日火災に

野積小学校は(写真参照)窓文字が見えるが、昭和三十三年卒業式を目前に三月七日火災に

三月十二日には体育協会主催の恒例の交流パーティーが開催された。「寺泊町体育協会」としては最後の行事となるわけで、町民の代表として全国大会に出場した選手が紹介された。小松徳昭(陸上)・桑原理(自転車)・白倉美樹(ハンドボール)・高桑新太(サッカー)・村越優希、三上あやの、島田奈摘、水戸亜美、布川優(以上カヌー)・松井勝矢(陸上)・山田大貴(バレー



円福寺への坂をのぼり門をくぐるとすぐ右手に松の古木を前景に佐藤継信、忠信の兄弟追福の塔が古色をたたえている。



松沢町から金山への入口に判官さまがある。かつて金山辺は人家もなく砂浜に細い道がづくさびさびとした地であった。



名門菊屋の跡地 聚感園にある義経弁慶主従由緒の弁慶手掘りの井戸。今園内は紅椿が満開である。

「ボール」遠藤綾子(ソフトラレ)丸山薫、高橋富寿雄、三浦恵美子、三浦ミツエ(以上ソフトラレ)シャインスター(寺泊)の十三名、日頃の研鑽を遺憾なく発揮健闘されたことである。なにはさておき故郷出身者が各方面で活躍されることは嬉しく誇らしく精一杯の応援を惜しまぬところですが先般東京寺泊会五十周年記念大会に出席の折大河津出身で東京都議会議員として活躍しておられた小林正則氏(一九五二年生)が東京都小平市長選挙に立候補されると聞いた。氏は、これまでの前例、踏襲主義、ことなかれ主義では多様化する市民の要望に十分対応できません。今必要なのは失敗を恐れず、市民が主体となる

能動的なまちづくりを進めていくことなのです。私はこのまちな、市民の可能性を最大限引き出し、小平を「最高のまち」にするため全力を尽くします。の決意のもと精力的に活動を展開しておられる。祈ご健闘!

『義経記』(1)  
さとうのぶひと

NHKの大河ドラマで「義経」をやっています。昨年の「新選組」は不評だったと聞いています。昔から「義経」と「忠臣蔵」は当り相場が決まっております。舞伎と芝居の世界でもてはやされてきました。NHK内部の不祥事と相まって、今年「義経」が名誉挽回に貢献できるかどうか見ものです。

寺泊には「義経」にまつわる旧跡がいくつもあります。カミの松沢町には「判官さま」の名で親しまれた等身大の石仏があります。残念なことに、寺泊に住んでいたのがらまだその石仏を参拝したことはございませんが、当時、町端からかなりの距離があったこの地に、義経一行が漂着、上陸したと伝えられています。上荒町の円福寺には佐藤継信、忠信兄弟の追福の塔があります。佐藤継信は、「平家物語」、屋島の戦いで義経の身代わりになって討ち死にした人物です。佐藤忠信は、義経が頼朝に背き、都落ちを余儀なくされるまで連れ添いました。吉野山中で義経を見送り、敵の包囲を打ち破ったので、京に潜入しました。そこで

幕府在京の武士槽屋有季に襲撃され、自害した人物です。能「忠信」や浄瑠璃「義経千本桜」に描かれました。この追福の塔は、兄弟の母首羽が建てたものという説がありますが、青柳清作氏は否定しています。大町の聚感園には五十嵐氏の豪壮な邸宅「菊屋」があり、「弁慶手掘りの井戸」があります。義経奥州落ちの際、一行は「菊屋」にかくまわれたと伝えられています。

警察権を握った五十嵐氏は、当然鎌倉の命を受けていたはずだから、義経をかくまうわけがない、との見解もあります。これに対し青柳清作氏は、弱者に對して味方するのは日本人の古からの性格である、「五十嵐氏」の義侠心とも考え合わせて、一行の逗留は肯定されるべきものと考えられると言っています。

しかし「弁慶手掘りの井戸」について青柳氏は、「弁慶がわざわざ井戸を掘ったなどとは信じられぬ」「ここに隠れていた時に、この井戸を使用したというものが間違えられて伝わったものと考える」と疑問を投げかけています。「弁慶手掘りの井戸」は国上の本覚院にもあり、そのほか、あちこちにあるそうです。

さて「判官びいき」という言葉で象徴される、義経の英雄気質が悲劇的な物語の骨格になっているのが、室町中期の作品『義経記』です。源平の合戦から約三百年後に書かれたもので



131年の歴史に幕を下ろした夏戸小学校。  
俺達は元々寺泊学区なんだからもと言うが、児童数のバラ  
ンスから大河津小学校へ編入。



現町教育委員長 笹川英志雄(海雲)氏の揮毫になる校歌  
を刻んだ閉校記念碑が建てられた。



光風台と名づけられた岡の上に立つ野積小学校。  
かつては中学校も独立していた。  
二宮金次郎さんも一寸淋しそう。

すから義経伝承は半ば神話化し  
ており、思い入れが付け加わっ  
て、史実からかなりかけ離れて  
いるという見方もあります。こ  
の『義経記』に「寺泊」が載っ  
ているので紹介いたしましょう。  
『義経記』には義経の奥州下り  
が二度あります。最初は承安四  
年(1174)の東海道下りです。  
若き義経は、父義朝の仇が平氏  
であることを知り、仇討ちの意  
を胸に秘めつつ、奥州藤原秀衡  
の庇護を受けるべく平泉に向か  
います。途中、義朝の舅の家で  
ある尾張の熱田社大宮司の家で  
元服を果たします。元服しお  
かないと、一人前の男と見られ  
ません。源氏の嫡流として、秀  
衡と対等の立場で会いたかった  
のでしよう。義経十六歳の時で

した。NHK大河ドラマでは、  
今ちようどこのあたりを放映し  
ています。二度目は、文治三年  
(1187)の北陸道下りで、平  
泉の秀衡のもとに落ちのびる逃  
避行でした。幕府の追捕をのが  
れて山伏の姿に身をやつし、ま  
さに「北国落ち」という言葉ど  
おりの暗さが支配していました。  
義経二十九歳。『義経記』には、  
義経一行はこの時、寺泊を通っ  
たことになっています。  
奥州藤原氏の繁栄は、中尊寺  
の金色堂によつてうかがい知る  
ことができます。この寺は初代  
清衡が、陸奥、出羽両国の支配  
の象徴として建立しました。  
清衡のあとを継承した二代基  
衡は毛越寺を建立します。今は  
わずかな堂塔を残すのみとなり

ましたが、毛越寺を参拝してびつ  
くりするのは、池を配した広大  
な敷地です。ここに中尊寺をし  
のぐ壮大な七堂伽藍があったこ  
とは、想像に難くありません。  
これは「毛越」は「けごん」  
という地名に由来するとされて  
きました。しかし現在では、「毛」  
は上野、下野の「毛の国」、「越」  
は「越の国」を意味すると考え  
られています。つまり基衡は、  
上野、下野の北関東一帯から、  
北陸道全体(越の国)に支配を  
及ぼそうとしていました。奥州  
藤原氏と越の国とのつながりは、  
加賀越前の白山社が中尊寺の鎮  
守の一つになっていることがあ  
げられます。だとすれば三代秀  
衡の時代、義経一行にとつて北  
陸道は、唯一安全な退路だった

ということができません。  
(「青柳清作『寺泊の歴史』寺泊  
町公民館、1961。日本古典  
文学全集31『義経記』小学館、  
1980。五味文彦『源義経』  
岩波新書、2004)。  
誌代御後援(敬称略・順不同)  
東京都 樋口 綾子 金五千元  
高橋 啓子 金三千元  
鈴木 高 金五千元  
樋口 田鶴 金一万円  
神奈川県 岡田 吉弥 金一万円  
栃木県 橋本 京子 金五千元  
野部 敏子 金五千元  
岩槻市 小黒 義雄 金三千元  
新潟市 三上 朝芳 金五千元  
長岡市 河合 昌弘 金五千元  
協野町 岩船 美津子 金三千元  
分水町 納谷 元祐 金五千元  
和島村

寺泊町 長谷川昭平 金五千元  
指田 孝平 金三千元  
橋本 宏嗣 金三千元  
志田 石 金三千元  
遠藤 義一 金五千元  
五十嵐 ヨイ 金三千元  
篠原 正 金三千元  
星野 勇 金三千元  
山崎 三代次 金三千元  
小林 源八 金五千元  
杉山 タツイ 金三千元  
長谷川 一成 金三千元  
長谷川 達栄 金五千元  
平井 松雄 金三千元  
渡辺 誠 金一万円  
山添 清 金三千元  
湖本 英 金三千元  
二月掲載分聖明寺は照明寺です。  
訂正お詫び申し上げます。

### 小波会三月句会詠草

兼題 雪代・北窓開く他当季

雪代の

行きどころなし駐車場

小島 温石

雪代の

川滔々と州を浸し

外山きよし

信濃川

雪代の水とめどなく

小形 美代

雪代の

解けぬ塊抱いている

内藤 蓮子

雪代の

杜にひびかふ路ふかし

小島 冬扇



海沿いの公園に植樹された桜も春に向って開き解き。  
早く大きく育って潮風の中の桜並木となる日が楽しみ。

北窓の

軋しみて開くや波の音

中村 流瓢

鳥の声

小さき北窓開けて見む

江原 汀子

北窓を

開けて何やら華やぎぬ

外山 海子

仮設家に

夕餉の灯り春の雨

能登 頑牛

春泥を

とばして遊ぶ幼子や

竹内 霍山

せめぎ合ひ

盤上無言春の雷

大越碧水子



体育協会主催の交流パーティーで挨拶する石川体育協会  
会長。  
広い裾野の上に一流選手が生れて来る。

ときめきの

老にも少し雛の夜

水沢 蕉子

春の風邪

喧嘩相手を倒したり

加勢 白汀

### あとがき

彼岸の中日を迎えてよりやく  
春らしい天気めぐって来たか  
に見えた。各寺々では彼岸の法  
要がとめられ冬の間ご無沙汰  
していたご先祖さまへのご挨拶  
に花を手にした人達がシモヘカ  
ミへと町はいっとき賑わった。

お墓へ花を供え本堂でのお勤  
めにお参りし住職のお説教が済  
むと皆でおときを頂く、寺のお  
ときは今どき流行のスロープ!



春まだ浅い港はぶっさらばうでよそよそしい。  
その辺に散らばるゴミと一緒に寒風のかたまりもありそ  
う。

毎月二十日発行

寺泊ふるさとだより

誌代税共(百円)

編集人 中 村 興 樹

発行人 新 島 康 寺 泊 町

発行所 新 島 康 寺 泊 町

ふるさとだより

郵便番号 九四〇一二五〇二

ダイヤル局番 〇二五八七五

電話 二〇二九番

振替番号 〇〇六二〇三三五四五

印刷所 吉野印刷株式会社